

凡例と注意事項（20 字×36 行×2 段）

◆本文の執筆方針

・コンセプトは「奈良検定 1～2 級合格に必要なにして十分な事項が、過不足なく書かれた実用的・実戦的なテキスト」。学術書でもなければ、観光ガイド本でもない。

・お手本は、山川出版社刊『奈良県の歴史散歩（上・下）』。執筆者は高校の歴史教諭（奈良県高等学校教科書等研究会歴史部会編）。ただし、コピペは禁止。

・旧テキスト（旧版）に関する根強い不満を解消する。

【旧版への不満】

ルビが少なく読みにくい／いかにも「寄せ集め」で、章によってタッチが違う／縦書きのため、特に数字（漢数字）が頭に入りにくい／陵墓・古墳のボリュームが多過ぎる。取捨選択が必要／「文学」が万葉集に偏りすぎ、近代文学の記述が極端に少ない／カラーグラビアが 16 頁と多過ぎ、出題とも無関係／本文にも、意味のない写真が多い（寺のお堂など）／旧版は 2007 年の刊行以来約 13 年間、誤字訂正以外の改訂が行われていない、新テキスト（新版）はこまめに改訂を行う（新版コンテンツの HP への貼り付けも検討）

・表現は「である」調（＝旧版）または箇条書き。Excel 表にできるものは Excel 表に。

・新聞は、読者を「中学 3 年生」と想定しているが、新版は「高校 3 年生」を想定する。

・漢字は旧漢字使用も可（先方の希望に従う）。

漢國神社、廣瀬神社、當麻寺など

・年代は和暦優先、西暦は（ ）内に。

天平 21（749）年

・神社は「所在地」「祭神」は必須。

・寺院は「所在地」「宗派」「本尊」は必須。

・旧版のコピペは厳禁（旧版執筆者の著作権

侵害となるため）。

・当会制作の『奈良百寺巡礼』『奈良万葉の旅百首』『やまとの神さま』は、参考にしても良い。ただし参考にした旨は、編集委員に伝える。場合によっては、写真も使える。

・社寺等からの「提供写真」は好ましくない。

・その他参考にした資料（社寺の HP など）等があれば、必ず担当編集委員に伝える。

・「個人的な感慨」「文学的表現」としない。

・執筆者は、担当編集者の指示に従うこと。

◆本文の書き方

・判型は A4・横書き・2 段組み。1 頁に 20 字×36 行×2 段＝1,512 字。約 200 頁を予定。

・数字は「半角・算用数字」とし、基本的に単位語（百、千、万、億）は使用しない。

・メートルは m（半角小文字）、グラムは g（同）。「㌢」や「㌒」としない。

・難読漢字のルビは、できるだけ付ける（旧版は少なすぎる）。ただし文字カウントの都合上、ルビは本文にはつけず、別の用紙（ルビ専用用紙）に書く。綏靖（すいぜい）天皇、頓宮（とんぐう）のように。ルビはカッコに入れて示す（文字が小さいと見にくい）。

・参考にした文献や Web サイトは、詳しくルビ専用用紙に書いて、編集委員に伝える。

・文章や画像に AI（生成 AI）の使用は不可とする（著作権や文責が曖昧になるため）。

・本文は各章ごとにまとめ、余計な空白は作らない。空白は、写真で埋めても構わない。

（写真スペース＝DSC サイズ・横長で 10 行）
1 段×9 行＝写真 1 枚（4 : 3 の比率）。

キャプションに 1 行取るので「10 行」必要。

・用字を統一する。（例）×想う○思う、×様々○さまざま。なお「祀る」の使用は可とする（ルビ不要）。